

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	令和元年7月25日	評価結果市町村受理日	令和元年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&ServiceCd=720&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有や実践に繋がられる様努めている。改めて、申し送りの時間を利用してながら理念を唱和する事で共有の度合いを深めていきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、事業所の行事へ参加を呼びかけたり、町内会の行事に参加する事で、一方通行とならない様な関係作りを心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症について話題が挙がった時には、今まで実践してきた例を具体的にお話させてもらう事で、少しでも理解して頂ける様にと努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、その中で話し合った事が、アドバイスとなり、事業所の取り組みに繋がった事例が過去にもあった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、事業所の実情報告やケアサービスについて、その都度連絡や相談しやすい関係にあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常関わる中で、危険と感ずる場面では、「危ない」という言葉が出てしまう傾向にあります。身体拘束廃止委員会を開催し、日々の支援内容を見直し、改善を行う事で事業所全体のケアの質を向上させていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気付かないうちに行われている不適切なケアがないか、勉強会を通じて学ぶ機会を設けている。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を検討しなければならないケースは過去にあったが、利用には至らなかった。今後、制度の利用を考え、少しずつ理解を高めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間を掛け丁寧に利用者やその家族に十分な説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら幅広い意見や要望を聞かせる様な関係作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場等で、管理者に意見や提案を聞いてもらい、検討の後に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己の努力目標を掲げ実践の後に、評価を受け次のステップアップに繋げている。努力した事が給与等に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や身体拘束等の研修スケジュールを立てて事業所内で研修を行えている。又、職員それぞれの力量に合わせた外部研修へ参加する機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催の研修会等を通じ、交流する機会はあるが、頻度は少ない。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの段階で得た情報と入居時に寄せられた情報を基に、本人、ご家族が一番困っている事を優先に考え、安心が確保される様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対してのご家族の思いや不安を共有し、事業所に希望する事や意向を伺いながら、ご本人と一緒に支えられる様、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した段階から、本人の状態を含め、必要と考えられる支援内容について検討し、初期プランを立案する事で、スムーズなサービスの利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が望む活動を把握し、出来るだけ希望に沿える様努めている。又、ご本人や家族との関係性がより深められる様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常生活での様子を出来るだけ家族に伝える事で、共に支え合う関係性に繋げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かつての知人や友人の面会も自由とする事で、関係が断ち切れる事がない様に意識している。また、面会に来易い雰囲気作りとゆっくり談笑出来る環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握については、強く意識している。状況を見ながらスタッフが関係性を取り持ち、関わりの時間を設けながら、関係性の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居前から通っていた老人クラブに、ご家族の協力で継続して参加出来ている方も居られる。又、退居された方のご家族と会った時に、現在の状況を教えて頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りや会議の場、毎月のカンファレンスの時間の中で意向の把握を行い、共有とケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人、ご家族から得た情報と他事業所からの情報、入居後の生活を合わせ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を把握し、より良い暮らしになる様アセスメントを行い、共有に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の話し合いや定期的カンファレンスを行い課題やケアの方法について検討している。また、本人やご家族から意見を求める様にしている。生活の中で見えて来る事象がヒントになる事もある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所内で定期的な勉強会を行っている。ケアの実践を記録に留める事の大切さは理解しているが、実際に記録となると、まだ、弱い部分が多く、継続した研修が必要と考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や入、退院時の送迎等、日中・夜間に関わらずその時々状況に合わせた柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の散歩の機会には、近隣の小学校まで足を伸ばし、運動会の練習や少年野球の試合を観戦する事もある。又、近くのコンビニや自動販売機で嗜好品や飲み物を購入する機会もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から、かかりつけ医の把握を行い、出来る限り継続して受診出来る様に務めている。状況によっては専門医を受診することで、更に適切な医療が受けられる様、支援している。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回母体病院より、看護師の訪問がある為、都度入居者の体調について相談を行える機会がある。相談の中で、専門医への受診を勧められる事もあり、スムーズな受診に繋げられる事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、安心して治療を受けられる様に普段の生活状況を含めた情報提供を行っている。又、入院後も面会を重ね、回復状況を伺う等、退院後に向けた支援を意識している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で、事業所ができる事とできない事を説明し、理解を求めている。また、日頃から日々の生活の様子について伝えと共に、体調の変化や受診内容についての報告を行い、情報の共有を行い、支援に繋げている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救急救命講習を殆どの職員が受講し、入居者の急変時事故発生時に対応できる様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の呼集訓練と消防訓練を行っている。消防訓練に関しては、関係各所の協力を得られており、終了後には運営推進会議を開催し、地域との協力体制を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等、出来るだけ他の入居者からの視線が集まらない様な工夫や声掛けを意識している。人格の尊重、プライバシーの保護に於いても、更に意識を高め実践に繋げていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄や入浴、休息、活動への参加に関して、出来る範囲でご本人の気持ちを尊重する様に務めている。日々の生活の中に小さな自己決定が出来る様、働きかけを積み重ねていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、休息の時間等できるだけ入居者一人ひとりのペースに合わせた支援ができる様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に通い慣れた理・美容院に出掛ける等をしながら身だしなみに気を付けている。また、その日の気分で、自からお化粧をされる方も居られる。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的に行っておらず、意識的に下ごしらえを依頼したり、味付けの相談をしたりする事で、食事作りに関わってもらった場面を作っている。また、季節に沿った食事も意識している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量は確保されている。食事量が少ない入居者にはご本人が好む物を補食として提供したり、栄養補助剤等の処方依頼しながら栄養状態の維持に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きについては、朝・夕食後しか行っていないが、口腔内の状態について把握に努め、状態によっては、歯科受診の支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品等は、日中・夜間の状態に合わせた物を使用している。基本的に本人の尿意に任せているが、排尿の間隔が長い時や本人の仕草を観察しながら随時声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大半の方が下剤の処方を受けており、水分等を多めに摂って頂いたり、腹部マッサージや乳製品を摂取して頂く事で便秘の軽減に繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをした上で、ご本人の返答・意思に沿った入浴をしている。スムーズに入浴が出来ない場合もあるが、週2回以上の入浴が出来る様に声の掛け方等を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣で、自から休息される方や、全く休息をとらない方等、ご本人の意向に合わせているが、体調が思わしくない方や、意思を伝えない方には、状態に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に効果や副作用について医師に伺う事や、副作用の症状が現れた時にはどうしたら良いのかと事前に確認を行う等、効果や副作用に対して注意を払い、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活動や役割についてそれぞれに差があり、少しでも楽しみや張り合いが持てる様に、気分転換を含めた関わりを意識している。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思い通りに出掛ける事は難しい状況にあり、時間の許す限り、近隣の散歩や季節に応じた外出等を心掛けている。中には、家族の協力で、自宅の町内会のクラブに定期的に通えている方も居られる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には、お金の事を口にされる方も居られ、お金を持つ事、使う事の大切さは理解しているが、基本的にはお金を持つ環境に無い為、自由に使う機会は殆どない。しかし、一部所持し管理できる方へは支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向やご家族の気持ちに配慮をし手紙や電話のやり取りは自由となっている。状況としては手紙・電話ともごく少数の入居者しか行えていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や居室は、シンプルな作りになっており、刺激になる空間はない、テレビの音量や温度、明るさへの配慮を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで過ごす中で、それぞれが思い思いの場所で過ごす事が出来ている。また、一人で過ごしたい方は、午前午後を問わず、好きな時に自室に戻り過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	申し込み時や見学時に、今迄遣い慣れた家具を持参していただく様に伝え、自宅の生活に幾分かでも近い居場所となる様に支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等の場所を間違える事が無い様に、表札等の目印を付ける等を行うと共に、その時々に合わせて本人が困る事の無い様に支援している。		